

トリック!?な現代アートがやってくる!  
ふわりの森アーティストインレジデンス 2019 始動!!



※1  
[アーティスト・イン・レジデンス (AIR) とは?]  
アーティストがある一定期間、自身のアトリエではなく地域や都市に滞在し作品の制作をおこなうプログラム。その地をリサーチし、制作、交流、発表を通じ創造活動を行う。招聘、公募など様々な形式がある。

Treachery of Painting / 視点違いの絵画たち  
作・パトリオット

11ページへ続く

「この作品の写真を観てください。側面には絵画が見えますが正面の絵画には絵が描かれていません。でもこの空間に足を踏み入れ側面にまわると、正面に絵画が登場します。視点や視野を切り替えることで絵が登場したり消えたりします。これがパトリオットのアート作品です。トリックアートの様な手法ですが、現代アート作品として東南アジアで注目を集めています。その背景には、彼がインドネシアの歴史や風景を作品に描いている部分にあります。」

パトリオットはどんなアーティスト?  
ここからの展開は?

「今年「空白」をモチーフに、「存在」をテーマに展開していきます。ふわりの森がスタートから今年で5年目を迎え、これまでのアートを含め、視覚や聴覚、感覚で物を見つけれられるような「存在」のアートをこの地域に創りたいと考えています。拠点を構えている下総松崎エリア(成田市)は過疎や空き家などを背景に、なにも無いと感じている人もいます。でも僕は、この地域にある空白には色や気配の存在を感じています。ここでしかない視点の切り替え方をすることで「見えないもの」から「見つけ出す」行為やその存在を今年の「アート作品」として表現します。この景色の中で「無い」から「存在」を創り出せるアーティストとして今年、インドネシアからパトリオットを招聘しました。」

不思議な絵画たち



FAIR 2019のテーマを教えてください。パトリオットに期待しています。

「今年「空白」をモチーフに、「存在」をテーマに展開していきます。ふわりの森がスタートから今年で5年目を迎え、これまでのアートを含め、視覚や聴覚、感覚で物を見つけれられるような「存在」のアートをこの地域に創りたいと考えています。拠点を構えている下総松崎エリア(成田市)は過疎や空き家などを背景に、なにも無いと感じている人もいます。でも僕は、この地域にある空白には色や気配の存在を感じています。ここでしかない視点の切り替え方をすることで「見えないもの」から「見つけ出す」行為やその存在を今年の「アート作品」として表現します。この景色の中で「無い」から「存在」を創り出せるアーティストとして今年、インドネシアからパトリオットを招聘しました。」

成田空港圏の現代アート拠点としてふわりの森が2014年にスタート。成田空港からアクセスできるアートエリアの創出としてシムラユスケ氏がアートを発信する拠点を牽引。様々なアーティストが参加し作品を発表している。その中核を担うのが「ふわりの森アーティスト・イン・レジデンス (FAIR)」だ。アーティスト・イン・レジデンス(\*1)では、これまでに多くの国内外の話題のアーティストたちがふわりの森に滞在。村上隆率いるカイキキから佐藤玲をはじめアーティストとして迎え、毎年度招聘アーティストとして現代アート作品を制作・発表してきた。昨年度はタイからジュリベイカー氏を招聘し、今年のアーティストはインドネシアから「パトリオット」が選ばれ、ふわりの森にトリックなアートを誕生させる。空港圏の現代アートを牽引し、さらなる話題を集めるこの現代アートプロジェクトを手がけるアーティスト、シムラユスケ氏にFAIR 2019について聞いた。

トリックな現代アート!?  
2019年のゲストアーティストが海外から成田で滞在制作!

ふわりの森アーティスト・イン・レジデンス2019がスタート!  
本誌連載特集の成田空港圏初の現代アートプロジェクト「ふわりの森」。プロジェクトを手がけるアーティスト、シムラユスケ氏が成田空港圏に初の現代アート拠点を開き、ギャラリー、アートカフェ、パブリックアートなどをプロデュース。空港を囲む豊かな自然をフィールドに、国内外の話題のアーティスト達が参加し、次々とアート作品を誕生させ注目を集めている。